令和８年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子市立逗子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等　●課題や改善点等）
全国・県と比較して　∓５％の差が見られる内容について中心に分析し、自校の指導計画や授業づくりに活用してください。

【　国語　】

≪言葉の特徴や使い方に関する事項≫
●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことや、言葉の表現を工夫することについて課題がみられる。

≪情報の扱い方に関する事項≫
○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができている。

≪話すこと・聞くこと≫
○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができている。

≪書くこと≫
○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができている

≪読むこと≫
○事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができている。
○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができている。

≪児童質問紙　国語に関する質問≫
○国語の学習が得意と感じている児童が多い。
●国語の勉強が好きだと感じている児童は５割ほどだった。
○国語の授業の内容がよく分かると回答している児童が多い。
●国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれるかという質問に対して、「よくある・たまにある」と回答した児童は全国平均に満たなかった。
●国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれるかという質問に対して、「よくある・たまにある」と回答した児童は全国平均に満たなかった。

【　算数　】

≪数と計算≫
〇基本的な計算能力が身についていることが分かる。
●数を四捨五入して、概数で表す問題の正答率が下がった。

≪図形≫
〇概ね体積の意味や求め方について理解している。

≪測定≫
〇数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができた。

≪変化と関係≫
〇単位量あたりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、どちらが混んでいるのか判断することができていた。
〇もとにする量・比べられる量・割合の関係を理解して、問題を解くことができていた。

≪データの活用≫
〇概ね表や棒グラフを読み取ることができていた。

≪児童質問紙　算数に関する質問≫
〇「算数の勉強は得意ですか」という質問に対して、約４割の児童が「当てはまる」と回答していた。「どちらかといえば当てはまる」も含めると７割近くの児童が算数の勉強に対して前向きな回答をしていた。また、「算数は好きですか」という回答に対しても同様の傾向にあり、全国平均よりも数値が上回っている。
〇「算数の授業の内容はよくわかりますか」という質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童が８割を超えている。どの質問に対しても全国平均並み、または全国を上回る結果になっている。今までの学習が定着していたり、算数の学習が今後の将来に役立つと考えていたりする児童が多いのではないかと考える。

◎児童質問紙の結果　特徴的なことや課題と考えられること等

１．〇 良かった点や特徴ある点等
・学校の授業時間以外に「３時間以上」勉強する児童の割合が 25.4%と、全国平均（10.5%）を大きく上回っている。また、国語（27.0%）や算数（39.3%）を「得意」と回答する児童も全国平均より高い。
・ICT 機器（PC・タブレット）を用いて「情報を整理する（38.5%）」や「プレゼンテーションを作成する（49.2%）」ことができると回答した割合は全国平均より高い。
・将来「積極的に英語を使う生活や職業に就きたい」と考える児童は 35.2%に達し、全国平均（21.1%）より顕著に高い数値を示している。
・朝食を毎日食べる児童は 86.1%（全国 83.1%）と高く、規則正しい生活の基盤が整っている。

２．●課題や改善点等

・「先生は自分の良いところを認めてくれている」と感じる児童（33.6%）や、「困りごとを先生や学校の大人に相談できる」と回答した児童（20.5%）の割合が、全国平均（それぞれ 53.4%、33.9%）より大幅に低くなっている。

・「学級では人と違う意見を言っても否定されない」と感じる児童は 24.6%に留まり、全国平均（39.6%）を大きく下回っている。また、友達関係への満足度（53.3%）や、学校に行くのが楽しいと感じる割合（38.5%）も全国平均より低い。

・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と強く回答した児童は 62.3%で、全国平均（81.1%）と比較して 20%近く低い。

・学校の勉強（27.9%）や悩みごと（10.7%）について、親や家族と「ほぼ毎日」話す児童の割合が全国平均（40.6%、14.7%）より低い。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

・今後も ICT 機器の効果的な活用方法を指導し、実践することを通して ICT を使用することによって学びがより広がったり深まったりするという経験をさせていきたい。そのためにも、教員の ICT 技能の向上を図っていく。また、児童自身が ICT を有効的に使える場面なのかどうかを考えることができるようにしていく。

・道徳の学習や学校生活アンケート等を利用して、いじめに対する意識を啓発していく。

・児童が、学習を進める際に分からないことをそのままにせずに、安心して質問できるような授業づくりを展開していく。また、児童一人ひとりに寄り添い、児童の実態に合った支援をしていく。